

不用になった陶磁器食器の回収とリサイクル

ふだん、私たちは、食事などの際に、陶器や磁器のお皿、茶碗、コップなどをいくつも使っています。こうした食器は、使っているうちに欠けたり、壊れたり、だんだんと馴染まなくなって使わなくなったりするものもあります。

現在、主要な陶磁器産地の一つ「美濃焼」の産地である岐阜県を中心として、不用になった陶磁器食器を回収・リサイクルし、ふたたび陶磁器食器を製造する活動が、産業・市民・行政の連携で行われています。

家庭で不用になった陶磁器食器を回収し、粉碎して、陶磁器食器の原料である陶土に混ぜ、食器に成型してから焼成します。

こうしてできた Re 食器は、子供たちが使う給食用の食器をはじめとして、レストラン、私たちが使う陶磁器製の食器として使われています。



写真提供：グリーンライフ 21

当協会は、不燃物として埋め立てられていた廃棄物の削減、産地の自然景観の保全などのため、この不用陶磁器食器の回収・リサイクル事業に取り組んでいます。



家庭から回収した「不用陶磁器食器」



食器を粉碎して細かい粒にします



写真提供：グリーンライフ 21

リサイクル陶磁器食器として様々な食事の場で使われます



リサイクルした粘土を混ぜ合わせて、坏土（はいど:焼く前の土）を作ります

Re50の開発

GI2 1・プロジェクトでは、回収した陶磁器製食器の粉砕物を20%配合したRe-食器（Re20）を市場に提供してきました。現在では、更なる資源の有効活用、環境負荷低減をめざし、**配合率50%のRe-食器（Re50）の販売や普及啓発活動**をしています。

○Re50は通常よりも100℃以上低い温度でも焼成が可能で**CO2排出量を17～33%削減可能**です。

■「Re-食器（Re50）」商品



MINORE



emerge



TOH

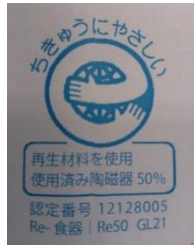


SWING(試作品)

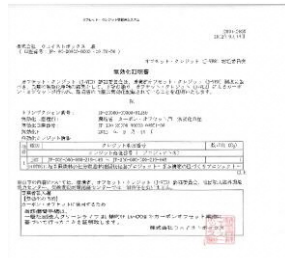
■普及啓発活動



PR配布



エコマーク取得



カーボンオフセット

- ・H24清流国体でPRのため配布
- ・Re50として初のエコマーク取得
- ・製造段階で排出するCO2はオフセットクレジット(J-VER)により無効化

透明釉の開発

Re50は低温焼成で素地の熱膨張も低いため、釉薬も低温で溶融し、かつ低熱膨張である必要があります。現在、商品化されているRe50はマット釉のみで、商品力アップのためには透明釉の開発が求められています。



開発した透明釉とその多色化

着色(色釉)、下絵付け(加飾)も可能
リサイクル食器に最適な透明釉を開発し、
透明釉に顔料等を加えて着色(色釉)を可能にしたり、下絵付け(加飾)を可能にしました。